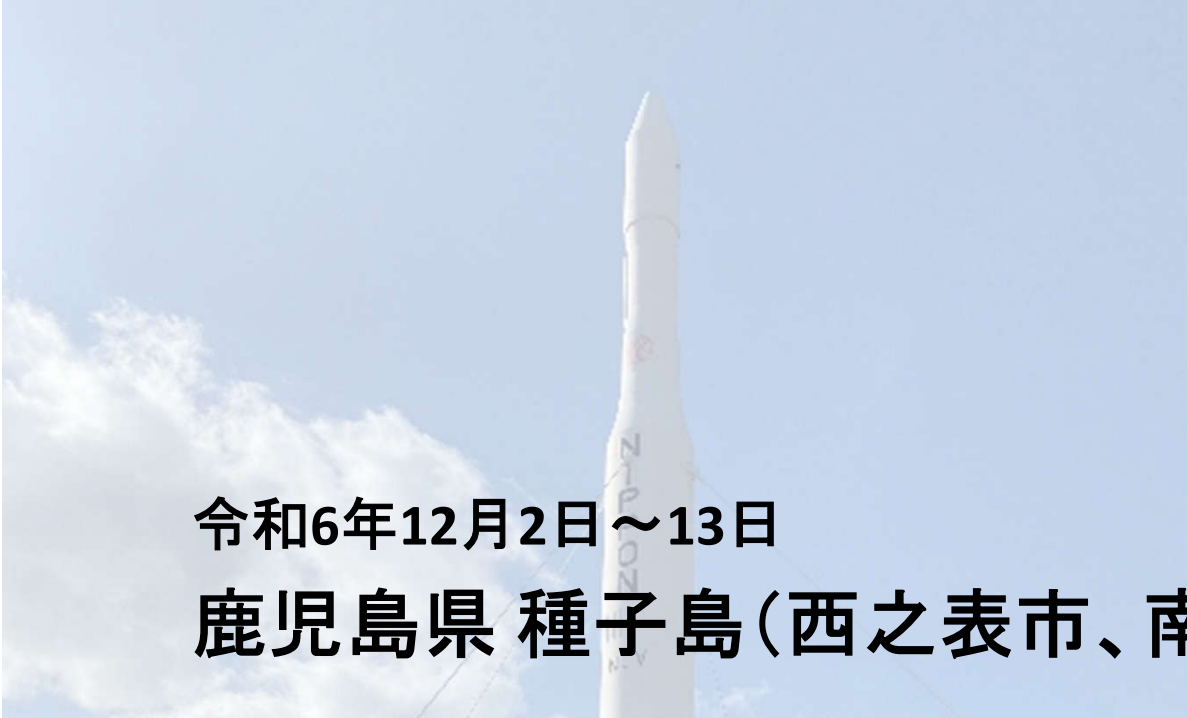




令和6年12月2日～13日

鹿児島県 種子島(西之表市、南種子町)における実務研修



日程

到着 12月2日

1日目 12月3日 西之表市教育委員会
安納小学校

2日目 12月4日 上西小学校

3日目 12月5日 西之表市教育委員会

4日目 12月6日 南種子町教育委員会
花峰小学校

休日 12月7日、8日

5日目 12月9日 島間小学校

6日目 12月10日 中平小学校、西野小学校、
南種子町教育委員会

7日目 12月11日 熊毛教育事務所

8日目 12月12日 安城小学校

9日目 12月13日 下西小学校
西之表市教育委員会
熊毛教育事務所

出立 12月14日

2週間、毎日異なる学校と教育委員会に訪問し、
「日常」の様子を観察させていただく＆お話を聞かせていただく時間となりました。

学校での体験



1 時間程度の校長先生より学校経営や地域の特色
についてのお話

その後→学校の様子を参観、行事参加等

離島故の児童数の少なさ、国内留学制度による児童
数の確保、複式学級の授業、学校と地域の協力関
係・・・



※学校Webサイト・ブログより転載
(<https://annoushoublog.blogspot.com/>)



学校での体験

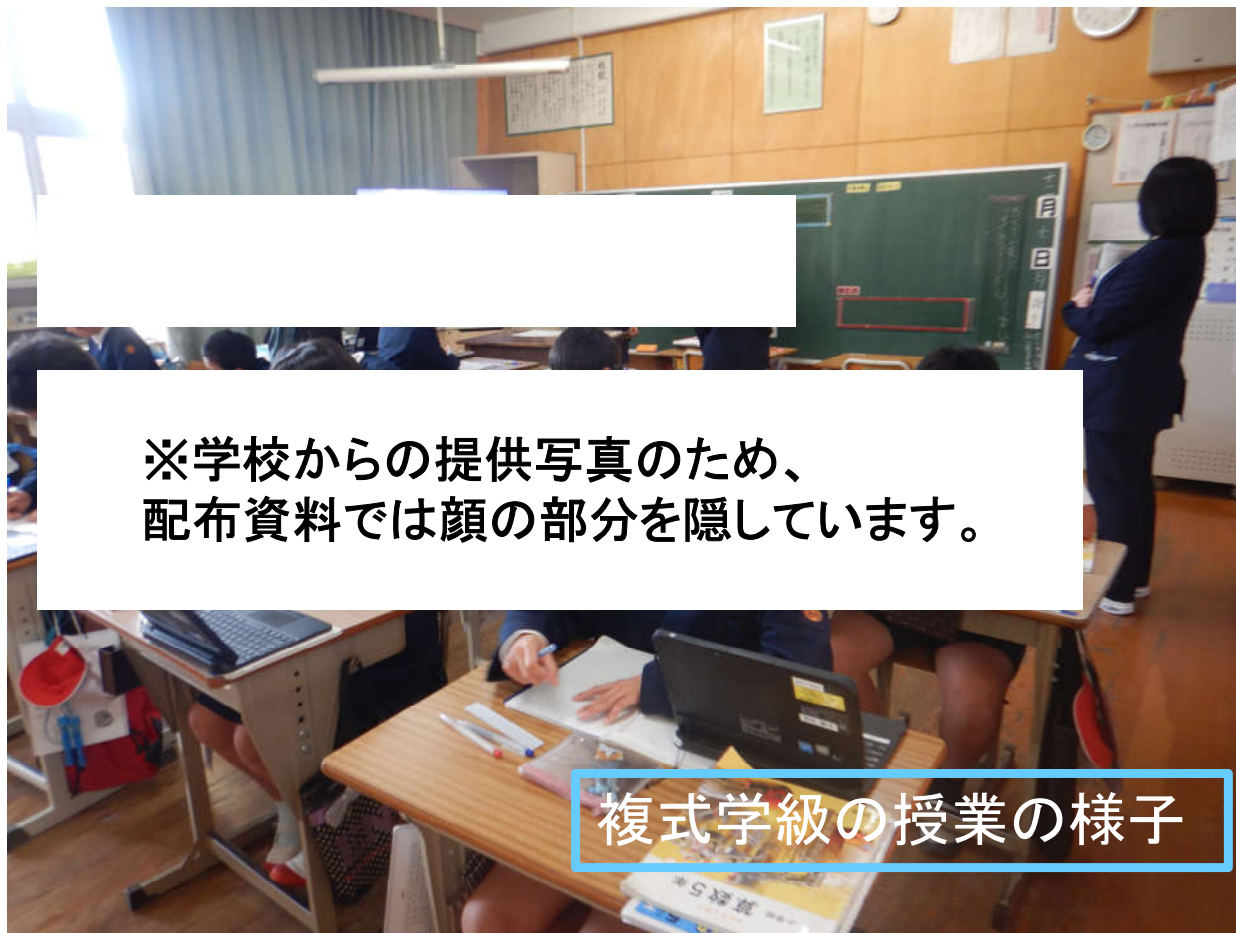
※持久走写真: 学校Webサイトより転載
(<http://www.nishinoomote.jp/n/kaminishi/2024/12/>)



持久走



特別支援学級



※学校からの提供写真のため、
配布資料では顔の部分を隠しています。

複式学級の授業の様子

学校での体験

印象的だったこと・感想等

- 各学校の校長先生の学校経営のお話
→自身の教育観、地域・学校の特色、国や県の方針、社会の潮流を意識した学校経営
- （学校経営のお話を聞いたうえでの）実際の教育活動の様子
→児童同士の声掛けの様子、学校行事の取組、掲示物…
- 地域と学校の繋がり
→学校の隣に校長住宅・教頭住宅 学校行事に多くの保護者が参加
P T A 学級会の様子、用務員等、市町で雇用されている地域の職員の言葉
- 複式学級の授業の様子
→「自律した学習者」とは？
- 小規模校ゆえの「交流」機会の重要性
- 一人ひとりを大切にする教育
- 職員研修や、会議の様子

教育事務所、教育委員会



西之表市教委

市の教育活動についての説明、意見交換
学校訪問への帯同（※施設整備関係）
教育長との会議、朝の会議等の見学
社会教育施設の見学、業務補助

南種子町教委

挨拶、教育長との懇談、学校訪問の見学



熊毛教育事務所

県の教育行政、特色等の説明
各担当業務の説明、意見交換
NITSの取組の紹介
所長との懇談

教育事務所・教育委員会

印象的だったこと・感想等

○市町教育委員会…教員籍の指導主事（課長含）：1～3名
少人数で、かつ幅広い範囲の業務を担当している

○県、市町、学校、学級の様子を見られたことによる、
「繋がり」と「特色」

→研修の現場では、「学校のグランドデザイン」「学校経営計画」から
現場の様子を想像したり（できていなかったり…）

○NITSの取組に関心を寄せていただいている方の存在を実感
→研修から戻った後、NITSニュースでも発信

おまけ

休日には種子島（および屋久島）の様々な観光資源や、歴史施設等を訪問できました。

（2日とも、たくさんの方に案内やご紹介をいただきました）



補足資料：実務研修報告書より 抜粋①

・学びになったこと、自分自身への気づき

研修期間全体を振り返って、あらためて「楽しかった」「体験できてよかった」という気持ちでいっぱいです。私は普段電話やメール、書面でのやりとりや、参加者の言葉を介して教育が動いている現場を間接的に知ります。しかし、そうやって間接的な知識として知ることと、実際に体感することの間にはやはり差異があるなど、今回の実務研修を通して改めて思いました。

自分自身への気づきとして印象的だったのは、これまでに学校訪問をしてきたときよりも、児童の姿、あるいは教職員の姿、校長先生の学校経営等について、「気づける範囲」が自分なりに広がっていたと実感できたことでした。これまでは授業などを見る視線も、どのような発問か、児童の回答の理解度はどうか、といった表面的な部分を見るにとどまっていたように思いますが、今回の研修期間中、児童同士の声掛けの様子や、他の児童と交流するときの児童の体の向きや視線、声掛けの内容など、「協働的に学ぶ姿勢」「主体的に学ぶ姿勢」が、児童の中にどのように培われているかを自然と意識しながら見ることで、自分に気づきました。また、そうなるように配慮した教員の声掛けなどにも注目するようになっていました。学校経営の話聞く中でも、相槌をうったり質問を返したりしながら、「学校としての特色・伝統」と、「校長先生個人として、大事にしてきたこと、校長先生自身の哲学」のようなもの、それぞれを意識し、どういう思いで学校経営をしているかを自然と聞いている自分がいました。これは、この数年間研修を担当したり、教職大学院に通い学んだりする中で、自分の中に新しく生まれた「視点」なのだと思います。このような視点で学校の様子を見て、学校について聞いていると、時間が本当にあっという間で、いくらでも見たいもの、聞きたいことがあふれてきます。毎日違う学校で一日見学をして話を聞いている、ある種それ「だけ」の活動ではありましたが、しかし、その中に非常に沢山の経験があり、学びの種がありました。それに気づけるようになった自分に気付けたことを含め、本当に良い時間だったなと思っています。

補足資料：実務研修報告書より 抜粋②

・NITSの事業との関連

NITSの中にいると、全国と繋がっているという感覚はあるものの、やはり学校現場の直接の空気を感じることは多くありません。そのため、地方で実施されている教育を「肌で体験する」という機会は少ないです。しかし、今回そのような機会をいただいたことにより、改めて「今NITSが大事にしたいと思っている学び」が、学校現場においても大事なものだとは認識することができました。

元々、自律した学び手を育てるという話の中でよく教員の方々から「複式学級の経験」を聞く機会が多くありました。また、「これから考えたい課題」を聞いたときに、「地域との連携」を挙げられる方も多かったです。今回の経験を通してこの2点が特に腑に落ちました。「複式学級の授業」は、片方の学年の指導をしている間、もう片方は児童自身で授業を進める（学びを進める）必要があります。お互いに協力しながら学ぶ様子、自分たちで「問い」を立てる様子は、「子供自身で学べるようにするため」の教師の様々な工夫があってこそ成り立っているのだと実感しました。また、地域にとって学校という存在がいかに大きいものか、そして、学校にとって地域という存在がいかに大きいものかということも肌で感じました。多くの学校で、学校行事の説明をされたとき、「運動会は地域運動会と合同で行う」ということをおっしゃっていました。また、周年行事が近い学校も多くあり、そこでも地域の方々の協力が多くあったことを教えていただきました。学校の用務員さんなどとお話をしていると、「学校の先生方は県から来て入れ替わっていくけど、私たち（島の住民）にとってはずっと同じ学校だから、皆で大事にしたいと思っている」というお話も聞きました。これらの話からも、地域協働の体制が学校に深く根付いていて、だからこそ、ニーズが高いのだなあとは実感したところです。

補足資料：実務研修報告書より 抜粋③

終始たくさんの方に支えていただき、とても充実した2週間でした。事前に色々な連絡をしていただいた（鹿児島県からの出向職員）、細かい連絡調整を進めていただいた総務企画課および（担当職員）、繋がりのある先生を教えてくださいました（鹿児島県からの特別研修員）、私のぶんまで仕事を行ってくださったマネジメント室や職員の皆様、期間中にメッセージで励ましをくださった方々、ありがとうございました。また、教育事務所の皆様、各教育委員会の皆様、各学校の校長先生をはじめとした教職員の皆様、児童や保護者、地域の方々にも、本当にあたたく受け入れていただきました。あらためてここでも皆さんに助けていただいたことをお伝えいたします。

今後、このような教育現場における実務研修も続々と展開されることだろうと思います。素直に学校現場の様子を見て、感じていただくのが一番の学びだと思います。普段、研修でかわかる教職員の方々は、やはり「子供」の姿を一番に語られることが多いです。私たちは研修を担当しながら、関わる教職員の方々が思い浮かべている「学校」「子供」の姿を、少しでも想像しておくことが何よりも大事だと思います。その意味で、プロパー職員がこのようにじっくり学校現場に身を投じることができる機会は、その時間そのものが貴重な時間になると感じています。

一方で、たとえば指導案の見方だったり、学校のグランドデザインや学校経営計画についてだったり、教育委員会と学校の関係性だったり、そういった基礎知識に関しては、私は「それなりに事前知識があってよかった」とも思いました。特に私は、毎日違う学校に伺いつつ、校長先生から学校経営について1時間お話を聞き、授業の中での気づきなどについて質問を行ったり、教育委員会の方と意見交換をしたりする機会に恵まれました。もちろん、わからないことは丁寧に教えていただけるのですが、それでもわかること、想像できること、資料を読んだだけで把握できることがそれなりにあることも、充実した時間とするには大事な時間だったなと思います。（偶然にも、司書資格のために学んでいた生涯学習関連の知識も役立ちました）必ずしも全部をしっかりと学習しておく必要があるわけではありませんが、時にはそういうものにアンテナを張って学んでおくことも、現地での学びを豊かにするのに資するかもしれません。

本当に素敵な2週間でした。あらためて、このような機会を準備してくださった皆様に感謝申し上げます。この学びを、これから業務に生かしていきたいと思います。